

「愛の実践と 『ハインリッヒの法則』」

主任司祭 申 優秀

皆さん、「ハインリッヒの法則」という言葉を聞いたことがありますか。「ハインリッヒの法則」とは、労働災害の分野でよく知られている、事故の発生についての経験則です。1件の重大事故の背後には、重大事故に至らなかった29件の軽微な事故が隠れており、さらにその背後には事故寸前だった300件の異常、いわゆるヒヤリハット（ヒヤリとしたりハツとしたりする危険な状態）が隠れているというものです。「1・29・300の法則」とも呼ばれます。

ある日、この統計学的な法則を私たちの信仰に適用して黙想してみることがありました。内容をひっくり返して「事故」ではなく「犠牲」を入れ替えられればどのような意味で

受け入れることができるかと考えてみました。映画のワンシーンのように、自分の同僚あるいは愛する人のために命を投げ出す「犠牲」のためには、普段からも数百回の小さな犠牲などがあるべきだし、自分自身が損する数十回の犠牲があるべきではないでしょうか。そういう経験を重ねてきたからこそ自分の命さえささげる「犠牲」を実践できるのでは。

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。」（ヨハネ 15・12-14）

「ハインリッヒの法則」に準えてみますと、友のために命を捨てる「犠牲」、すなわち「愛の実践」は

一日にして成らないのです。数百回の小さな愛の実践が伴わなければならぬし、数十回の損する愛の実践があるならば、「隣人を自分のように」愛することができ、命さえささげることができると思えます。

たとえ愛の実践の中、人々から心に怪我を負わされても勇気を失わないようにしましょう。十字架による怪我を持っておられるイエスの方が、その御手を伸ばされながらこう言われるはずですよ。

「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」（ヨハネ 16・33）



「2022年度の信徒総会を終えて」

信徒会長 パウロ Y・M

糸島教会の信徒総会が、5月8日(日)40数名の参加により開かれました。3年ぶりの信徒総会を、多くの信徒の皆さんの参加のもと開催できたことを心より感謝いたします。U・Y副会長が進行役を、議長を常盤榮二さん、書記をH・Rさんが務めて下さいました。初めての議長を快くお引き受け下さった常盤さんにこの場をお借りし感謝申し上げます。

申神父様より、「糸島教会着任後初めての集いとなるが、糸島教会として足りないところを今後どのように満たしていくか総会において見いだせれば」との挨拶がなされました。会長挨拶では、教区からの4000万円の借入金をもつて完済できる見通しで、長い間返済にご協力頂いたことへのお礼の言葉を述べさせて頂きました。

総会の中での意見として、11月27日予定の教会大掃除を、待降節前の11月20日に実施してほしいとの要望がKさんよりあり、またN・Nさんより、予算書の費目がどのような整理になっているか知りたいとの意見がありました。いずれも拡大委員会で検討することになりました。

糸島教会の今年度の信徒使徒職活動方針は、教区の宣教司牧方針の中で3つの目標が提示されていますが、『互いに支え合う「交わりの教会」となる』を中心に、今後の宣教司牧活動を進めていきたいと思えます。

この2年間新型コロナウイルスは初めてのことで、手探りの状態で信徒の皆さんには大変ご不便をお掛けしました。今年度からは信徒総会を皮切りに、拡大委員会、班集会などを開催していきます。ミサについても6月から、2年数ヶ月ぶりに班分けなしの参加となります。コロナ禍でも、感染対策を行いながら可能な限りいろいろな集いを実施し、福音的交わりを実践できればと思えます。

現在人類は、コロナ禍に加えロシアとウクライナの戦争という二重の大きな苦しみを味わっています。教皇様は5月の聖母月にあたり、毎日のロザリオの祈りを、平和のために捧げるよう、すべての信者に願われました。この願いに応え、世界中の信者と共に、心を一つにして聖母にロザリオをお捧げ致しましょう。聖ヨハネ・パウロ2世は「おとめマリアのロザリオ」という使徒的書簡の中で、『ロザリオの祈りの力に、世界の平和の問題を託します』とまで言われています。素朴で単純な祈りですが、大きな力ある祈りです。

最後になりましたが、今年度の『互いに支え

合う「交わりの教会」を目指して、祈りのうちに大いなる希望をもって歩んでまいりましょう。

「御成人おめでとう
「ごぞいます！」

糸島教会では、U・HさんとK・Mさんが成人式を迎えられました。
新成人の為に、お祈り下さい。

20歳になりました。

大人の意識をもって頑張りたいと思います。

みなさんもお元気に頑張ってください。

U・H



「2022年御復活祭」

4月17日、無事御復活祭を迎えることが出来ました。

本年も、祝賀会はかないませんでした
が、皆様のご協力により、可愛らしく作られたイースターエッグを祝別して頂き、お持ち帰りいただくことが出来ました。
みなさまの沢山のお働きと、お心遣いに
感謝いたします。



「富の里ボランティアを卒業いたします」

D・N

四〇代半ばより微力ながら、富の里のボランティアに参加させて頂いておりました。当初、私も将来お世話される立場になるかも知れないと思い、若い時に少しでもお手伝いが出来ればという気持ちでした。

しかし、いつの間にか三十五年経ち、今では足も腰も体力も弱まり、大した働きも出来ず、逆にボランティアの皆さんにご迷惑をおかけする年代になりましたので、この度卒業させて頂くことにしました。

思い返せば、このボランティアを通して多くの教会（西新、大名、茶山、笹丘、高宮）の方達とお友達になりました。昔は活動も幅広く、美容経験のある人はお年寄りの髪のカットをし、ガーデンングが得意な人は花壇の手入れ、

その他ベッド回り、お部屋、廊下の掃除、布おむつたたみ、ミシン掛け、食事の介助等をしていました。

お昼は持ち寄りのお弁当を食べ、その後はおしゃべりタイム。いろんな話が飛び交い、楽しいひ



と時を過ごしました。この頃から顔の笑いシ
ワが出来たのかもしれない。その頃、この
おしゃべりが楽しみでボランティアに来てい
るのかも…というのが、皆さんの感想でした。

現在、このようなご
時世になり、小じん
まりとなつてしま
いましたが、ご都合
のつく方が少しで
もこの輪に入つて
いただき、楽しいボ
ランティアを続け
てくださることを
願っております。
ありがとうございます
ました。

H・E

富の里ボランティア活動の皆様、長い間仲間
に入れて頂き、有難うございました。

月に一度の集り、楽しく参加させて頂きまし
た。一緒に働くのは短い時間でしたが、それな
りに楽しいひとときを過ごしましたことは、忘
れられない思い出です。

神さまの愛のもとでのボ
ランティアならではのす
ね。ボランティアの仲間
からは外れますがこれか
ら宜しくお付き合いくだ
さいませ。



小崎登明さんの本を読んで

H・A

ある知り合いから 小崎登明さんの作品
長崎オラシヨの旅 西九州キリシタンの旅の
本を 良かったから読んでみてという事で頂
きました。

オラシヨとは ポルトガル語で「祈り」の
意味です。長崎は日本のキリシタンの聖地。
また原爆で被害を受けた、平和宣言の町で
もありません。1549年にザビエルが日本に
キリスト教を伝え、豊かに成長して行きます
が、その後、豊臣秀吉の伴天連追放令 禁教
弾圧 迫害 殉教 潜伏時代を経て、鎖国は
解かれ信仰の自由な時代を迎えます。

今から157年前 長崎の大浦に建てられ
た南蛮寺に(大浦天主堂) 信者たちが訪れ
「ワタシノムネ アナタトオナジ サンタマ
リアの御像はどこ？」 信徒発見につながりま
した。

長崎は 開港(400年前)以来 今日ま
で キリシタンの祈りから平和の祈りまで
多くの祈りがささげられた町です。

長崎オラシヨの旅は 長崎の街の 日本2
6 聖人殉教地 原爆資料館 平和記念像
桜馬場・キリシタン発生の地 大山町 神の

島、聖母の騎士修道院 大浦天主堂 浦上天
主堂やキリシタンの里・黒崎 ドロ神父の文
化村・出津など 心温まる話題を盛り込んで
キリスト教信仰の息づく街を案内された本で
す。

西九州キリシタンの旅は キリシタンの地
五島 大村 平戸 島原 天草などを巡り各
地の天主堂 殉教地 隠れの里、今なおキリ
シタン信仰を受け継いだ多くの信者たちの生
活 心に触れる祈りの旅を案内された本で
す。

私自身 感銘を受け 非常に勉強になりま
した。
教会図書室に 小崎登明さんの作品 多数あ
りますので 読んでみてください。

小崎登明さんは聖母の騎士の修道士 長崎
の被爆体験者 アウシュヴィッツで身代わり
に死亡したマキシミアン コルベ神父様の
研究家として有名です。また 長崎の聖コル
ベ記念館の担当や館長を務めたり 長きに
わたり 被爆体験 平和の大切さを伝えた方
です。

2021年に
93歳で亡く
なられました。



『はるかかのひまわり』に寄せて

ミカエル U・Y

先日、兵庫県の伊丹教会から、『はるかかのひまわり』の種が送られてきました。そこで、5月15日にその種まきをしました。今回は、その意味と私のささやかな体験について書かせていただきます。

1995年(平成7年)1月17日(火曜日)午前5時46分、兵庫県南部を中心にマグニチュード7.3の巨大地震が発生しました。この地震で、6434名の方が亡くなり、10万戸以上の家屋が全壊・焼失しました。

カトリックたかとり(当時は鷹取)教会が全焼するなど、教会関係にも多くの被害がありました。

この地震では、建物の倒壊による圧死が多発し、その後の耐震基準の見直しや家具の固定などにつながりました。

プロジェクトの名前にもなっている『はるかちやん』も、自宅の倒壊によってがれきに埋もれて亡くなったそうです。以下、『はるかかのひまわりの由来』について、『はるかかのひまわり絆プロジェクト』のホームページより転載します。

平成7年1月17日の明け方、5時46分、

大きな地震が襲いました。木造の建物は、その揺れでひとたまりもなく崩れてしまい、2階部分が崩れ落ち、1階は完全に押しつぶされてしまいました。はるかちやんがガレキの下から発見されたのは、地震発生から7時間後でした。震災から半年後、かつてはるかちやんの家があった空き地、はるかちやんの遺体を発見した場所。驚いたことに、そこに無数のひまわりの花が、力強く、太陽に向かって咲いていました。お母さんはひまわりを見て、「娘がひまわりになつて帰ってきた」と涙しました。近所の人たちは、この花をこう呼びました。『はるかかのひまわり』。

何も無くなつてしまった町の空に、次々に咲いた大輪の花はたくさんの人を励まし勇気付けました。

自分は、震災翌月の2月15日に、避難所になつていた『兵庫大開小学校』というところにボランティアで入り、湯沸かし・給水車からの水運び・食料や支援物資を運んだり整理したりする等の活動を3日間しました。学校の大きな柱にひびが入り、隣のビルは傾いて「もう一度揺れが来たら、ここはつぶれるな」と言われていました。また、震度3や4の地震は続いていました。夜になると、どこ

からか「ズサ」という音が聞こえ、「何ですか」とたずねると「ああ、またどこかで家がつぶれたんだ」と教えてくれました。傾いた家屋が、耐えきれずに崩れるときの音なのだそうです。

すでに、児童の登校は再開されていたのですが、まだ多くの教室を避難者が使っていました。先生方は、受け持っていた児童の安否や避難先を確認する作業をまだ続けていました。震災直後は、被災した自宅へも帰らず、学校に寝泊まりしながら、避難者への対応や児童の安否確認などに追われていたそうです。不明者を捜すカードや自分の避難先を書いたカードが、まだいたる所に貼られています。

地震の時は、物が落ちるのでは無く、「物が飛んできた」と揺れのものすごさを話してくださいました。当初は、「大人が子どもを横取りしていた。」「水洗トイレが使えず、汚物でいっぱいだった。」そうです。

そうした混乱状況から自治組織を立ち上げ、被災した人同士が支え合つて、人としての心と生活を取り戻していったのです。自分が入ったときには、自治組織が確立して、整然と避難所が運営されていました。

阪神淡路大震災は、「ボランティア元年」とも言われています。多くのボランティアが現地へ入り、復興支援のためのボランティア活

動が展開されました。物だけでなく心の支援の大切さも理解されました。

自分もボランティアに入って、被災者の方々「ありがとう」という心からの言葉に、励まされ元気をもらいました。自助・公助、そして共助です。互いに愛し合うことで、乗り越えていけるのだと思います。

イエス様は、「わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽い」(マタイ11-30)とおっしゃいました。また、パウロはコリント人への手紙で、「神は信頼に値するかたです。耐えられないような試練にあなたがたを遭わせるようなことはなさらず、むしろ、耐えることができるように、試練とともに抜け出る道をも用意してくださるのです。」(コリント10-13)と書き送っています。

人の目には、「悲惨」と写ることも、神様の計画の中では、人が神の国に近づくための試練であり、乗り越えるための恵みもまた与えてくださっているのだと思います。「自分がはるかちゃんのお母さんだったかどうか」と問われると、揺らいでしまいます。でも、その弱さもご存じなのだと思えます。だからこそ、「神への愛と人への愛」を掟としてくださったのだと思えます。

『はるかかのひまわり』に込められている願いは、震災の記憶を風化させず、「災害や命の尊

さを再考する機会とする」ということだけではなく、「何も無くなってしまう町の空に、次々に咲いた大輪の花」のように、「自ら元気を取り戻す自己再生や復興。身近な家族や友人を思いやる中での再生や復興。さらに、地元故郷の再生復興。(同ホームページ)」です。

ということは、27年前の出来事ではなく、今の自分や身近な人のことでもあると思います。誰にでも、つまずきや失敗はあります。乗り越えられないと思うような出来事が起きるかもしれません。

でも、必ず再生できる・復興できるという確信や希望が込められているのです。

「途方に暮れるが、望みを失いはしない。」(ニコリント 4-4)という私たちの信仰にも、通じるものがあると思います。

この夏、糸島教会にも「はるかかのひまわり」が咲き誇ることを祈ります。



マリア会総会のお知らせ

6月5日(ミサ後)、マリア会総会が開かれます。

コロナ禍により昨年一昨年と開催がままならず、実に3年ぶりとなります。

残念ながら、会食は出来ませんので、お弁当はお持ち帰り頂きます。

参加なさる方は、お御堂入口にある名簿にご記入をお願いします。

宜しくお願いいたします。

女性の会総会のお知らせ

締切は過ぎましたが、制限人数まで若干の余裕があります。ご参加お待ちしております。

福岡地区
カトリック女性の会
第39回総会
6月4日(土)
大名町教会 大聖堂にて
13:00~16:00(受付 12:30~)

・総会	13:00~
・司教様によるお話	14:15~
・ミサ	15:00~

司教様: ヨゼフ・アペイヤ司教様
司教様: レナト・フィリッピーニ司教様
(福岡地区カトリック女性の会事務局長)

ご来場の皆様へお願い
・当日は駐車場はございませんので、公共の交通機関をご利用ください。
・コロナウイルス感染症の状況次第で、厳禁による総会になる場合がございます。

マスク着用
手洗い
検温

《6月の予定》

- 5日(日曜日) マリア会総会
- 12日(日曜日) 1班班会
- 19日(日曜日) 2班班会
- 29日(火曜日) 申神父様霊名聖。ベトロの祝日